

アフリカ州 ～特定の生産品にかたよる生活からの変化～

氏名：松山 真子

学校名：鹿児島市立武岡中学校

担当教科：社会科

実践教科：社会 中学社会(地理・歴史)

時間数：4 時間

対象学年：中学 1 年 人数：1 クラス 37 名(全 109 名)

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：		
アフリカ州の自然・歴史と文化，産業の特色について雨温図，分布図，写真などの資料を使って，基礎的・基本的な知識を身に付け，アフリカ州の問題と日本のつながりや，本当の意味での『豊かさ』について考える。		
【2】単元の評価規準例	(ア) 関心・意欲・態度	アフリカ州に興味関心をもち，意欲的に取り組んだり，文章にまとめたりすることができる。
	(イ) 思考・判断・表現	アフリカの発展や課題について多角的に思考し，文章にまとめたり，説明したりすることができる。
	(ウ) 技能	アフリカ州の特色について雨温図や分布図，写真などの資料を読み取ることができる。
	(エ) 知識・理解	アフリカ州の自然，環境や文化，産業の特色について基礎的基本的な知識を身に付ける。
【3】単元設定の理由 (児童/生徒観・教材観・指導観)	<p>(1) 教材観 本単元は，学習指導要領の中学 1 年の地理的分野の目標の (2) と (3) の一部を達成することをねらいとして設定した。生徒にとってあまり身近ではないアフリカ州の自然，歴史や文化，産業の特色について調べ，なぜアフリカの産業が特定の作物に偏っているのかを歴史的文化的な背景を踏まえて理解することをねらいとしている。また，アフリカの現状を知り，さまざまな問題を多面的多角的に考える姿勢を育てたい。そこで，アフリカの代表的な地形を地図から読みとらせ，地形が気候や人口分布に影響を与えていることをおさえたい。またアフリカのほぼ全土がヨーロッパの 7 か国の植民地だった歴史や公用語，宗教との関連に気付かせ，現在も結びつきがあることや経済発展上の課題などを考えさせたい。</p> <p>(2) 生徒観 本校の生徒は，興味のあることに対して，積極的に取り組む姿がみられる。特に歴史的分野は興味があり，どの時代の誰がどんなことをしたのか詳しく話したり，発表したりする姿が見られる。しかし一方で地理的分野の関心が低く，世界の国に対してあまり興味をもっていない現状がある。アフリカには「動物がいる」「貧しい」「砂漠がある」という漠然としたイメージしかなく，アフリカの国名を尋ねてもあまり出てこない。そこで，アフリカの地理や国名，自然環境や文化，産業などを基礎的な部分を DVD などの視聴覚教材を使いながら学習することで，興味関心に結び付けたい。また，根拠を示しながら自分の意見をまとめたり，友達の意見を自分の考えと照らし合わせながら聞いたりする時間が十分にとれていないので，1 学期に学習した基礎的な内容を踏まえながら，考え話し合う時間が必要だと考える。1 時間の授業の中に個人もしくはグループで考える時間を確保し，学習で得た知識を使いながら思考する時間を設定したい。</p>	

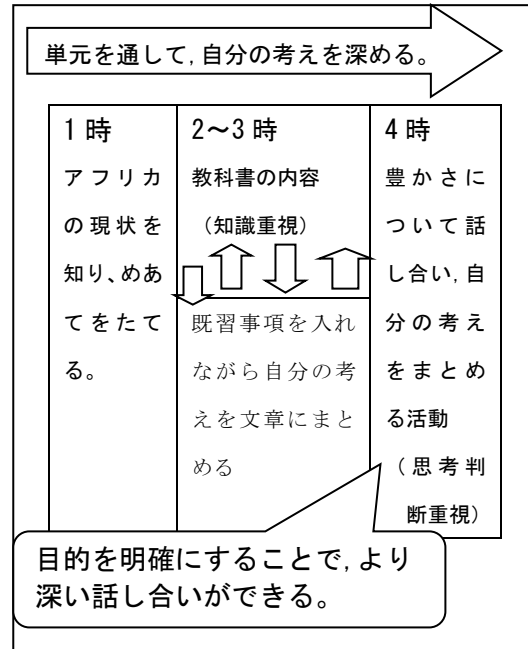
(3) 指導について

本題材ではアフリカ州の基礎的基本的な内容をおさえながら、アフリカ州の経済や環境などの問題を考えさせたい。導入では、児童の実態をもとに参加体験型の活動を取り入れることで、学習意欲を高めさせたい。

本時では、アフリカ州と日本とのつながりをクイズにし、アフリカと日本との経済面でのつながりに気付かせ、歴史的な背景を踏まえながら、現在の農業や鉱業などの産業や輸出の現状を知り、モノカルチャー経済のメリットやデメリットについて多面的多角的に考えさせるため、『入れ構造』モデルを採用する。

(4) 入れ子構造モデルについて

展開では教科書で学ぶ内容を使いながら、毎時間終末に自分の考えを書かせ、最後の豊かさについての話し合いが、十分に深まるようにしていく。そのために2時と3時の学習時には最後に学んだキーワードを使ってまとめを考えさせ、4時に話し合い活動を取り入れながら、自分の考えをまとめることで単元を通した学びにつながっていく。



【4】展開計画

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「マラウイと日本とのつながりを考える」 〈ねらい〉 マラウイの国と日本の衣食住を比べながら紹介し、学習することの大切さを考える。	世界にたくさんある国の人口、言語の違いを、『世界がもし 100 人の村だったら』の中にあるカードを使いながら学び、マラウイの国と日本の国との衣食住の違いに気付かせる。 学校教育の違いを説明し、改めて学校で学習できること、教育を受けることの大切さに気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図 『世界がもし 100 人の村だったら〈開発教育協会の役割カード〉』 パワーポイント
アフリカ州の自然環境や文化、産業などを学習し、アフリカの発展やほんとうの意味での豊かさについて考えよう。			
2	「アフリカ州をながめて」 〈ねらい〉 アフリカ州の自然環境、歴史、文化、産業にはどのような特色が見られるのかをおさえ、ノートにまとめる。	アフリカ州の地形や歴史、文化などの特色について、写真や動画を視聴しながら学習する。 植民地だった歴史に触れ、現在の国境や公用語、伝統文化について特徴をワークシートにまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 『新しい社会 地理』 『グラフィックワイド地理（世界・日本）』 DVD『世界の諸地域 4 アフリカ州』

3 本時	<p>「アフリカの産業と新たな開発」 〈ねらい〉 アフリカの農業や鉱業などの産業にはどのような特色があるのか調べまとめる。</p>	<p>ゲーム機, チョコレート, コーヒーなど生徒になじみがあるものを中心にカードを用意し, アフリカと日本がどのようにつながっているのか考えさせる。 植民地の時代より続くプランテーション農業や鉱産資源の輸出から, モノカルチャー経済のメリットやデメリットを考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『新しい社会 地理』 ・『グラフィックワイド地理 (世界・日本)』 ・『授業に役立つ統計資料 2017』
4	<p>「アフリカの課題と展望」 〈ねらい〉 アフリカの発展に向けてどのような課題を抱えているのか話し合う。</p>	<p>ナイロビ市内の2つの写真やアフリカの各地域の写真から, アフリカの生活や平均寿命を比較し, 共通点や相違点について話し合わせる。 アフリカの発展に向けて, 日本の非政府組織の働きやアメリカ連合 (AU) についておさえる。 学習したことを振り返り, 「豊かさ」とは何か考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『新しい社会 地理』 ・『グラフィックワイド地理 (世界・日本)』 ・『国際理解教育実践資料集～世界を知ろう! 考えよう～』 ・『豊かさの開発』

【5】本時の展開 (2/4)

過程・時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (8分)	<p>1 「8枚のカードの中からアフリカとつながりがあるものはどれでしょう。」 〈生徒の反応〉 「チョコレート」「コーヒー」「蚊取り線香は日本だと思う」 2 めあて確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アフリカとつながりがあるものを話し合い, 選ばせる。 ・ 選んだ理由を発表させることで, アフリカとのつながりに気付かせる。 ・ めあてを確認させる。 	<p>『国際理解教育実践資料集～世界を知ろう! 考えよう～』</p>
展開 (30分)	<p>アフリカの農業や鉱業などの産業は, どのような特色があるでしょう。</p> <p>3 アフリカでは茶, コーヒーなどの商品作物の栽培がさかんであることを説明する。 4 アフリカで産出する鉱産資源の種類と分布についてワークシート (白地図) で確認する。 5 鉱産資源を凡例に従って原油・ダイヤモンド・銅にマークに色を塗る。 6 アフリカの資源と貿易相手国について説明する。 7 アフリカの産業の仕組みである, モノカルチャー経済のメリットとデメリットを考える。 〈メリット〉 ・ 植民地時代から続く取引先 ・ たくさんの量を一斉に作り, 取引をすることができる。 〈デメリット〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アフリカの歴史をDVDで確認しながら, なぜ特定の作物だけを栽培して輸出しているのかを考えさせる。 ・ 白地図と教科書を使いアフリカでとれる鉱産資源の内容と場所を確認させる。アフリカ北部が原油, 南部はダイヤモンドが採れることを確認させる。 ・ 資料集を使いながら, 貿易相手国と商品作物を確認させる。 ・ 一次産品 (農産物・水産加工物・鉱産資源など) が多いことを確認させる。 ・ モノカルチャー経済のメリットとデメリットを話し合わせる。 ・ 鉱産資源の輸出国や貿易相手国の帯グラフを確認し理由を考えさせる。 	<p>DVD 世界の諸地域 4 「アフリカ州」 アフリカ州のあゆみ</p> <p>『グラフィックワイド 白地図作業帳』 『グラフィックワイド地理資料集』</p> <p>『授業に役立つ統計資料 2017』</p>

<p>まとめ (12分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天気や景気で価格が大きく変動。 ・ 一部の人だけが豊かになる。 <p>8 アフリカの農業や鉱業の特色についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アフリカは、ヨーロッパ人によって造られたプランテーションで特定の農作物を栽培したり、鉱産資源を産出したりして、欧米諸国や日本に輸出するモノカルチャー経済がさかんである。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで意見を交流させる。 ・ モノカルチャー経済についてキーワードを使いながらまとめさせることで、授業の中で出てきた内容を、復習させながら取り組ませる。 	
----------------------	--	---	--

【授業実践の様子】



アクティビティの様子（資料1）

アフリカとつながりがあるものはどれでしょう？

			
① ゴマ	② コーヒー	③ 煙草	④ 白身魚フライ
			
⑤ 蚊取り線香	⑥ プラチナの指輪	⑦ スマホ	⑧バラの花

アフリカクイズ（資料2）

【6】 本時の振り返り

アフリカ州について授業をする中で、アフリカについて興味をもたせるためにアフリカと日本とのつながりについてクイズを出し、産業や鉱産資源について興味をもってもらえるようにした。DVD やパワーポイントなど視覚教材を取り入れ、集中力が途切れないようにした。また、白地図に色を塗らせることで、どこの地域で何がよくとれているのかおさえることができた。最後のまとめ部分は、授業の中に出てくるキーワードを使い、各自が文章でまとめるようにすることで、自分なりに課題について考えながら意欲的に取り組むことができた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

〈授業後の感想カードより〉

- ・ 日本とマラウイの風景が違うことや学校へ行けない人がいることに驚きました。
- ・ 日本人の隊員さんが子どもたちをたすけているのがすごいと思いました。英語をしっかり勉強して世界の人と通じていきたいです。
- ・ 学校は何のためにあるのか、めんどくさいなどと思い、学校がずっといやでした。でもマラウイやアフリカの子どもたちの中には行きたくてもいけないと知って、わたしはすごく幸せなんだと思いました。

【途上国・異文化への意識の変容について】

(授業前)

- ・ アフリカは遠いところ、怖いところというイメージだった。
- ・ 赤い羽根やユニセフなどの募金活動を行うが、募金がどこへいくのかわからない。アフリカは日本から遠く離れた知らない国といったイメージだった。

(授業後)

- ・ 単元テストをしたところ、他の地域よりもよく理解し、問題を解くことができていた。(平均 77 点)
- ・ 授業中に発問や質問が多く、興味関心を持って取り組む生徒が増えた。
- ・ 最後に考えを文章化することで、意欲的に調べたり、発問したりする姿が見られた。
- ・ アフリカに行ってみたい、青年海外協力隊になりたい、いろいろな国で働きたいという意見を聞くことができた。
- ・ 豊かさや貧富の差を考えたことがなかったのでとても新鮮だった。日本は、豊かな国だと思った。
- ・ 笑顔な人が増えて、楽しく生活できることが豊かさだと思った。といった意見も多くみられて、改めて日本のよさに気付くことができた。

【自己評価】

11. 苦労した点	開発教育を取り入れて授業をつくるために2時3時では知識重視の授業を行い、4時の授業では、思考判断表現を重視する流れで授業を行った。50分の授業の中で、考える時間の確保が難しかった。
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られた時間の中で学習するので、課題を明確にすること。 ・ 様々な情報の取捨選択を行うこと。
13. 成果が出た点	単元後に行うテストの平均が73点で、知識理解の内容をほとんどの生徒が記入することができた。また、記述式の記事もキーワードを使いながら自分なりに考えを書く生徒の姿も見られた。アフリカについて興味関心が高まった。
14. 備考	・ 中学校の先生方も協力的で、この授業の後にいろいろな国の言語で「廊下は歩きましょう」とか「静かにしましょう」などの注意書き看板を作って掲示していた。

参考資料：

- 『世界がもし100人の村だったら』マガジンハウス編
『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら第5版』開発教育協会
『国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～』 JICA 地球ひろば
『統計情報で見る世界と日本 授業に役立つ統計資料2017』 日本文教出版
中学校資料集『グラフィックワイド地理 世界・日本』 東京法令出版 教育出版部
中学校教科書『新しい社会 地理』 東京書籍
『2016年度版 開発教育白書 日本の国際協力』 外務省編
『豊かさの開発』開発教育協会